

てんぱく いちねん フラザ天白 この一年

3月も半ばを過ぎ、今年度も残すところあとわずかとなりました。今年度は昨年度以上に、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年となりました。思い返せば、年度初めの4月に「三重県緊急警戒宣言」が出され、5月のGW明けから「三重県まん延防止等重点措置」期間に突入し、市主催事業及び貸館が中止となりました。6月下旬から例年どおり教室活動や人文教活動など開始したものの、8月上旬にまた「三重県緊急警戒宣言」、そして「三重県まん延防止等重点措置」、「緊急事態宣言」と9月末まで続き、事業ができない日々が続きました。10月から事業が再開でき、天白ふれあいまつりや就業支援事業が無事開催できたと安堵していたのも束の間、年明け早々、またまた「三重県感染拡大阻止宣言」が出され、そのまま3月6日まで「三重県まん延防止等重点措置」期間となり、あっという間に年度末です。

事業を計画しては、延期、中止、規模縮小など、皆様にも大変ご迷惑をおかけしました。この場をかりてお詫び申し上げます。また、コロナ禍の中、多くの皆様にご協力いただきました。天白人権まちづくりの会をはじめ、天白町自治会、こども育成会、保育園や幼稚園、小学校、中学校の先生方、ボランティアの方々、そして地域の皆様、この場をかりて心よりお礼申し上げます。今後も引き続きご協力いただきますようお願いいたします。プラザでは来年度も、人権が尊重される社会の実現に向けて取り組んでいきますので、よろしくお願いたします。

今年度の人文協活動は、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響で、通常期よりも募集時期も遅れ、活動が始まったのも6月となりました。まん延防止等重点措置の影響で計画通り活動を執り行うことができない状況となりました。このような年となりましたが、活動内容なども工夫しながら進めました。

レッツ（小学生人権学習会）のメンバーも今年度、20人となりました。ふれあいまつりや学校で発表する機会もないため、テーマ別に新聞を作成し配ることで、自分たちの取り組みを知ってもらうこととなりました。



TOMORROW（中学生人権学習会）では、1年生も2人加わり、2年生をあわせて5人となりました。人権学習についてなかまと話し合い、また先生方と集う場ともなりました。

進路学習会（チャレンジ）については、小学生は、自分の課題を準備し取り組み、またわからないところなどは相談しあう姿が見られました。また中学生は、定期テストに向けて集中して取り組む姿が見られました。

ここ かつどう とお なかま きすな ぶか せいか こんご おも
個々の活動を通して、仲間との絆を深めることができました。この成果を今後にいかしてほしいと思います。

らいねんど ひ つづ ちいき かたがた しんらい した かくかつどう と く
来年度も引き続き、地域の方々に信頼され、親しまれるプラザとして、各活動に取り組んでいきますので、よろしく
ねが
お願いします。

じんけん てんぱく しゅうぎょうがくしゅうし えんじぎょう
人権プラザ天白 就業学習支援事業

「ITパスポート試験対策講座」を開講しました

じんけん しゅうしょく さいしゅうしょく ゆうり しかくしゆとく しえん しゅうぎょう もくてき
人権プラザでは就職や再就職などが有利となる資格取得の支援や就業のスキルアップを目的として、
しゅうぎょうしえんこうざ かいこう こんかい だい かいめい しけんたいさくこうざ おこな
就業支援講座を開講しています。今回は第3回目として、「ITパスポート試験対策講座」を行いました。「IT
Tパスポート試験」は社会人もしくはこれから社会人となる学生が身につけておくべきとされている、ITや
けいえい かん きそてき ちしき しょうめい こっかしけん
経営に関する基礎的な知識を証明するための国家試験です。

しんがた かんせんしょうたいさく けいしき こうぎ にち じかん けいふつかかん おこな
新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン形式での講義を1日あたり6時間、計2日間で行いまし
た。募集の結果、大学生や社会人など6名の方にご参加いただきました。

さんかしゃ ぜんたい なが つか こえ みじか なか ははひろ
参加者からは「全体の流れを掴むことができました」といった声をいただき、短いスケジュールの中で幅広
ぶんや かくしゅう おこな いっぽう つうしんかんきょう みだ き と すこ くわ
い分野の学習を行っていただきました。一方で、「通信環境の乱れがあり聞き取りづかった」「もう少し詳
しく学びたい」といった意見もいただきました。いただいた意見をもとに講義期間や環境など改善していきたい
まな いけん こんぎかん かんきょう かいぜん
と考えております。また来年度も就業支援事業を続けていきますので、募集の際は是非ご検討ください。



てんぱく おんこちしん ～天白、温故知新～ NO.9

ぜんこくすいへいしゃそうりつ しゅうねん ぜんごう つづ
〈全国水平社創立100周年 前号からの続き〉

ねん がつみつか ぜんこくすいへいしゃそうりつたいかいご がつ にち みえけんすいへいしゃ まつさか どうじつやく めい
1922年3月3日、全国水平社創立大会後の4月21日、三重県水平社は松阪において、当日約500名の
ひと さんか ひら たいかい しょだいいんちょう きたむらしようたるう えら けんがい さいこうまんきち
人が参加して開かれました。この大会では、初代委員長に北村庄太郎が選ばれました。県外からは西光万吉
ぜんこくすいへいしゃしょうねんだいひょう やまだ このじろう さんか たいかいご まつさか いせい いがうえの しぶ
や全国水平社少年代表の山田孝野次郎たちが参加しました。大会後、松阪、伊勢、伊賀上野などにはすぐに支部
けっせい きべつ うんどう ひろ かくち つた
が結成され、差別をなくす運動が広く各地に伝わりました。

よっかいち ちゅうしん ほくせいすいへいしゃ くわな れんけい そしき すず ますやまえいち ほくせいすいへいしゃ
四日市を中心にした北勢水平社は桑名とも連携して組織づくりが進められました。増山栄一は北勢水平社
のリーダーとして、日永村に水平新聞支局を設置しました。日常的に差別が横行する中で、それを無視するこ
とはできず、1930年9月、日永村に「全水北勢支部」と名を改め、創立されました。

よっかいちしきょうういけいんかいへんしゅうはこう がっこうじんけんきょううく てび だい しゅう ぶらくしがくしゅうちいきりょう よっかいち ぶらくし
(四日市市教育委員会編集発行 学校人権教育の手引き第45集 部落史学習地域資料Ⅱ『四日市の部落史』より)